

# 上級講座スケジュール

## 1日目

- 10：00 タロットカード  
12：00 昼ごはん  
13：00 独行道  
14：00 呼吸法  
15：00 縦詩  
16：00 家系学  
18：00 晩ごはん  
19：00 気功法  
21：00 終了

## 2日目

- 10：00 ダウジング  
12：00 昼ごはん  
13：00 養生訓  
16：00 魂成論  
18：00 晩ごはん  
19：00 天界と地獄  
22：00 終了

### 3日目

- 10：00 初級・中級ふり返り  
12：00 昼ごはん  
13：00 祈祷瞑想 ノトメディテーション  
18：00 晩ごはん  
19：00 勉強 テスト  
21：00 終了

### 7回シリーズの場合

- 1、タロットカード2・獨行道1
- 2、呼吸法1・家系学2
- 3、気功法1・ダウジング2
- 4、養生訓1,5・魂成論1.5
- 5、天界と地獄2・初級 中級ふりかえり1
- 6、祈祷瞑想～ノトメディテーション3
- 7、テスト・まとめ

### 提出課題

縦詩 - 7作・鑑定レポート - 7枚

## タロットカードとは

- ・古くからヨーロッパの遊牧民族・ロマによって語りつがれて来た、カードを使用した占いで、いわゆる朴術と云う偶然性を利用した未来を観る為の物です。
- ・天運養生術では、他のタロットとは異なり、占う対象には一切触れさせずに行います。
- ・心を天使に向け「大天使ミカエル・ガブリエル・ラファエルよ、〇〇さんの〇〇の内容についてお答え下さい」と念じてからカードを切ります。左手中心
- ・天運養生術では、22枚の小アルカナカードのみを使用し、ケルト十字を基本とします。

# I : 魔術師・出発

正：愛の芽生え、独創性

逆：キッカケの失敗、スランプ

# II : 女教皇・知識

正：知性、研究、精神性

逆：かなわぬ思い、ヒス、イライラ

# III : 女帝・豊饒

正：情熱、意欲、思いやり

逆：実らぬ思い、怠け、過保護

# IV : 皇帝・威厳、寛大

正：勝利、実力、体力

逆：終わり、ダウン、過労

# V : 法王・論理、倫理

正：深い愛、合格、充実

逆：ヤケ、不倫、孤独、悪化

# VI : 恋人・調和

正：チャンス、ラッキー、アップ

逆：から回り、遊び過ぎ、失敗

# VII : 戦車・勝利

正：勇気、闘志、スピード、スタミナ

逆：気弱、実力不足、怪我、不摶生

# VIII : 力・自信

正：真実の愛、根性、努力、和解

逆：迷い、無謀、ダウン、ハッタリ

# IX : 隠者・知性

正：プラトニック、冷静、内面

逆：疑い、ミス、不調

# X : 運命の輪・因果

正：出会い、告白、転換期

逆：すれ違い、不安定、早とちり

# XI : 正義・公平

正：誠実、バランス、真面目

逆：不釣合い、好き嫌い、不公平

# XII : 吊るされ男・試練、終着

正：尽くす、努力、犠牲

逆：あきらめ、落第、怪我、不利

# XIII : 死・新生

正：不運、八方塞がり、消耗

逆：出発、変更、転換

# XIV : 節制・戒め、練磨

正：深まる愛情、復習、交流

逆：疲労、無駄、小心、ダレ

# XV : 悪魔・欲望、改革

正：盲目、未練、潜伏、不眠

逆：別れ、快樂、さぼり、治癒、変化

# XVI : 塔・滅び

正：失う、トラブル、急病

逆：危機、窮地、争い、休養

# XVII : 星・希望

正：誕生、明るい、芸術、ヘルシー

逆：背伸び、高望み、疲労、ケチ

# XVIII : 月・不安、浄化

正：三角関係、迷い、ズル、ノイローゼ

逆：好転、やり直し、完治

# XIX : 太陽・活力

正：オープン、順調、ハツラツ

逆：崩壊、ミス、キャンセル、低下

# XX : 審判・審判

正：再燃、復活、決断、吉、好調

逆：無駄、行き詰まり、悲観、復讐

# XX I : 世界・平安

正：満足、区切り、安定

逆：マンネリ、不足、スランプ

# O : 愚者・道化

正：冒険、ヤマカン、チャレンジ

逆：軽率、投げやり、不安定

# — ダウジング —

ダウジングとは

人間の心情や意識、気や本能に反応する道具を使って  
様々な内容を探る技術です。

天運養生術では

このダウジングを使って土地や建物について3つの  
事を調査して行きます。

## ①地脈・水脈

土地の地下にある異物や水について調べる。

## ②龍脈・気脈

地勢から流れ込むエネルギーの力。

## ③靈脈・人脈

様々な靈的影響や人の思い。

# 天運家系学

- 家系とは血の流れである

かいけいすけ  
父々、親の母は、娘の夫の妻の血筋  
(親子代々) 血筋

- 生まれた順番で、奇数は父方、偶数は母方で観る

1 2

血筋の中出やわい

- 家系には、それぞれ課題、宿題がある

基本は色情と殺傷である

1 2

宿題→物欲、つまらない鳴き

色情

呼吸器、心臓、腎臓などの臓器で死んでしまう人

殺傷……力行使

- 聖書に見る例題

・アダムとイブの色情問題

・カインとアベルの殺傷問題

・血筋を残す重要さと女性の役割の大きさ

- 病気は因果を観る鏡

病気 → 家系  
家系と病気の関係性

- 1子は親、2子は祖父母、3子は曾祖父母

いんがのむけに流れ因果

やくせいの宿題はさやかに  
やくせいの宿題はさやかに

- 良い血筋を創る鍵は、正しい夫婦愛

- 家系の盛衰は長男で観る

長男の鳴き声  
3男本丸

- 本人の課題を明確にする

## 天運家系学

- ・ 家系とは血の流れである
- ・ 生まれた順番で、奇数は父方、偶数は母方で観る
- ・ 家系には、それぞれ課題、宿題がある  
　　基本は色情と殺傷である
- ・ 聖書を見る例題
  - ・ アダムとイブの色情問題
  - ・ カインとアベルの殺傷問題
  - ・ 血筋を残す重要さと女性の役割の大きさ
- ・ 病気は因果を観る鏡
- ・ 1子は親、2子は祖父母、3子は曾祖父母
- ・ 良い血筋を創る鍵は、正しい夫婦愛
- ・ 家系の盛衰は長男で観る
- ・ 本人の課題を明確にする

## ～脱力体操～

脱力体操とは、体を横にして、全身の力を抜いて行く体操です。実際は体を動かしませんが、呼吸法、瞑想法につなげる為の準備体操で、インドのヨガに相応していて、全身の筋肉をやわらげる事を目的としています。

1、体を横にして、リラックスさせます。

2、意識を全身に廻らせ故障が無いか調べます。

3、意識を足の指先に集中させ力を抜きます。

4、次に足の裏全体から力を抜きます。

5、次に足のかかとから力を抜きます。

6、次に足の中から力を抜きます。

7、次にくるぶしの力を抜きます。

8、次に足の甲の力を抜きます。

9、次に足首の力を抜きます。

10、ここまで来たら、一度全身の力を抜きなおすします。このように、1関節を3から5回位に分けて全身の力を抜くようにします。

# — 魂成論・こんせいいろん —

- ・ 魂成論とは人間の魂の成長について述べた内容です。
- ・ 魂は人間にのみ与えられていて、産まれて初めて呼吸をした瞬間に肉体とつながります。
- ・ 人は母体の海で五体を創り、地上で肉体を通じてソウルを完成させ、あの世で永世を生きていきます。

## 8段階の魂・心の成長(The Eight Steps of the Seoul)

- S 8 神心・他の為に喜んで尽くし生きる、敵は無し。 父母感  
宇宙
- S 7 父心・他を見守り育てる心、責任行動、不満無し。 責任感  
宇宙
- S 6 母心・他を許し受け入れる心、喜んで行動する。 責任感  
地球
- S 5 子心・他を思いやる心、見つけ出して行動する。 使命感  
国家
- S 4 幼心・他を認められる心、進んで行動する。 使命感  
民族
- S 3 自心・自己中心の心、批判されない程度の行動。 義務感  
氏族
- S 2 我心・他を認めない心、何でも仕方なくやる。 義務感  
家族
- S 1 邪心・他を支配しようとする心、不平、不満。 義務感  
自己

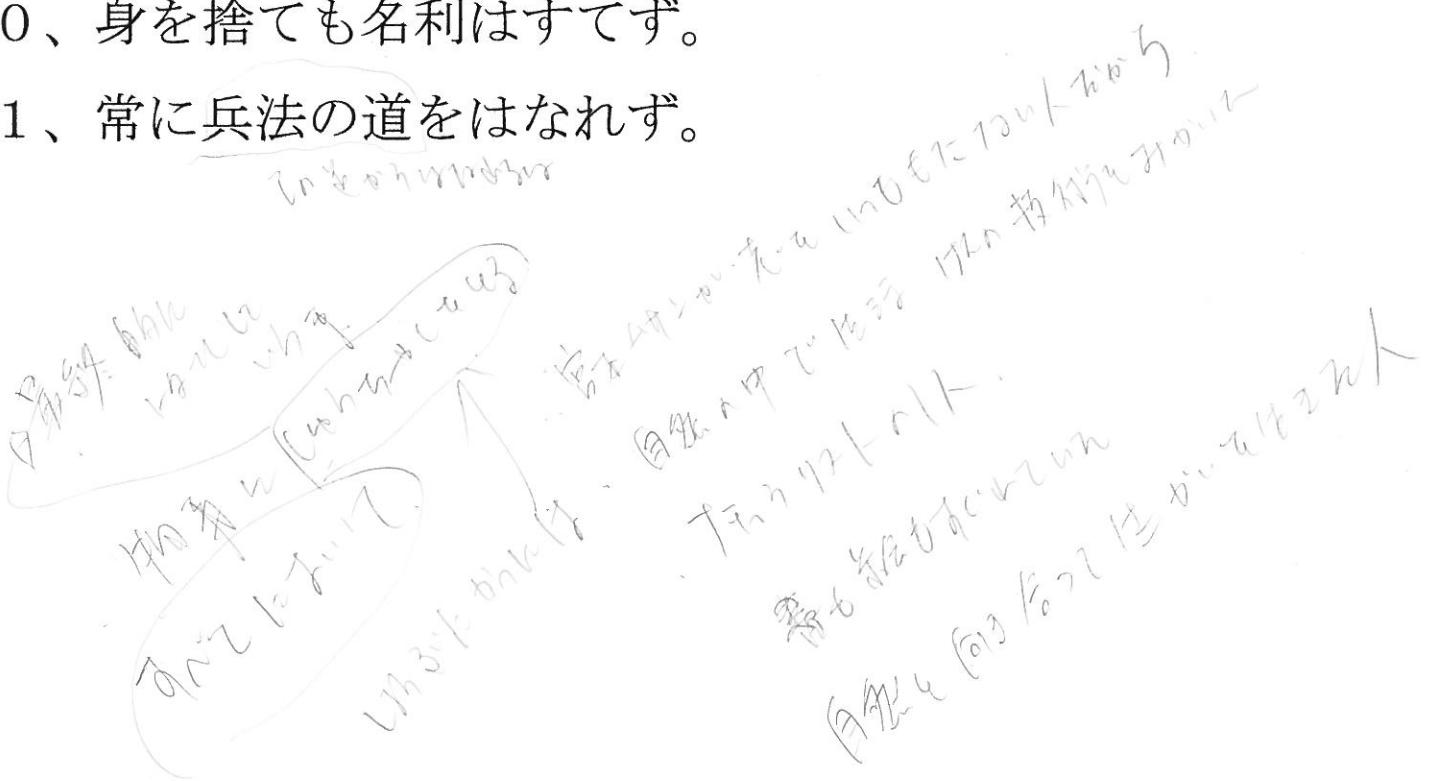
# 宮本武蔵～独行道

宮本武蔵  
著

江戸時代初期の剣豪、宮本武蔵が62歳で亡くなる  
7日前に知人、高弟に書き残した、自省自戒の書である。

- 1、世々の道をそむく事なし。
- 2、身に楽しみをたくまず。
- 3、よろづに衣この心なし。
- 4、身を浅く思い、世を深く思う。
- 5、一生の間、欲心を思わず。
- 6、我、事において後悔せず。
- 7、善悪に他をねたむ心なし。
- 8、いずれの道にも、別れを悲します。
- 9、自他共に怨みかこつ心なし。
- 10、恋慕の道思い抛る心なし。

- 11、物事に数奇このむ事なし。  
12、私宅においてのぞむ心なし。  
13、身ひとつに美食を好まず。  
14、末々代物なる古き道具を所持せず。  
15、我が身にいたり物いみする事なし。  
16、兵具は格別、余の道具たしまず。  
17、道においては、死をいとはず思う。  
18、老身に財宝所領もちゆる心なし。  
19、仏神は貴し、仏神をたのます。  
20、身を捨てても名利はすてず。  
21、常に兵法の道をはなれず。



# 養生訓一貝原益軒

江戸時代初期の儒学、医学、薬学、地理学、歴史等の専門家で、黒田藩に仕える。

## 養生訓一全八巻

- 第一巻 総論(生活)上 - 人の命は我にあり、天にあらず。
- 第二巻 総論(生活)下 - 百病みな氣より生ず。
- 第三巻 飲食(食事)上 - 病は口より入る。
- 第四巻 飲食(食事)下 - 食養生、酒、たばこ、茶、SEX。
- 第五巻 生体(五官・便・洗浴) - 五官は心の家臣。
- 第六巻 病気(その心得) - 病気はからぬ用心が肝要。
- 第七巻 薬(その用い方) - 補薬はそれぞれに異なる。
- 第八巻 老後、養育、鍼灸 - 老人は幼児を養うがごとく。

### 【全巻を通じて心と体と社会の健康について書かれた本】

- 天地、父母の一環としてのこの身。人身は貴くして天下四海にもかえがたし。  
人の筋け地球を重んじる人
- ④ 四欲(飲食、好色、睡眠、言葉)、七情(喜、怒、憂、思、悲、恐、驚)を勇で抑え、外邪(風、寒、暑、湿)を畏れて防ぐと元気を損なわず、長生きする。
- 養生の第一は心を平和にし、心氣を養う事。
- 養生の要訣は、畏れ、の一言なり。
- 寿命は百を上、八十を中、六十を下とする。
- 心を平らに身を滞うらせず、家業精励すべし。
- 養生は学び、行動しなければ得られず。

## 天界と地獄・全63章～スウェーデンボルグ

18世紀、スウェーデンの偉人。科学、医学、建築に多くの功績を残し、晩年、神秘家として靈的体験を基にした多くの著作を残す。世界で初めて脳の解剖によって、その役割を明らかにする。

### 第1部 天界－全43章

- ・ 主の神性(眞の愛)が天界をつくられた
- ・ 天界には2つの王国がある(天的王国・靈的王国)
- ・ 天界には無数の社会がある
- ・ 天界全体はひとりの人間になっている
- ・ 天界と人間の間には相応がある
- ・ 天界での結婚と職務

### 第2部 精靈界－12章

- ・ 精靈界を通じて人間界とつながっている
- ・ 人は皆、内部では靈である
- ・ 死後の人間は、感覺・記憶・思考・情愛のすべての点で、現世での肉体以外は、生前と何ら変わらない

### 第3部 地獄界－8章

- ・ 主は誰も地獄に投げ込まない、靈みずからが行く
- ・ 地獄の者は皆、自己愛と悪と偽りの内にいる
- ・ 天界と地獄との間の均衡によって、人間は自由である

## スウェーデンボルグの生活規律

- ①神の聖言を勤勉に読み、聖言を默想すること。
- ②神の摂理<sup>せつり</sup>の配剤に満足すること。
- ③行動の礼節を守り、良心を清く保つこと。
- ④自分の職務と仕事を忠実に果たし、自分をあらゆる事において社会に役立たせること。